

まちの話題

Machi no Wadai

市内で行われたイベントや行事、まちの話題を写真と一緒に紹介します。
また、みよし市ホームページでは「Topics(まちの話題)」と「市政番組『みよしTODAY』動画配信」でイベントや行事の様子を紹介しています。🌐<http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp/>



「食」について考えてみよう

食育推進ボランティアによる食育教室 (南部小学校)

食への関心を高めてもらうとともに、地域に根付いた食育実践活動を促進しようと2月21日、食育推進ボランティアによる食育教室が南部小学校で行われました。愛知県豊田加茂農林水産事務所が主催して行われたこの教室に、南部小学校の3年生児童88人が参加。当日は、市内在住の食育推進ボランティアの小野田加代子^{のたかよこ}さんをはじめ4人を講師に迎えて、市内で昔から桃の節句のおやつとしてなじみがある「おこしもん」を作りました。子どもたちは、おこしもの名前の由来を聞きながらこねた米粉を型に入れ、思い思いに食紅を使って色付けをし、その後おこしもんを食べながら、お米ができるまでの過程やお米の魅力についてみんなで学びました。蒸し上がったおこしもんを見ると「わー」と子どもたちの歓声が教室中に響き、「おいしそう。早く家に帰って食べたいな」と笑顔で話していました。





春を迎えて新しい野菜づくりを

野菜作り講習会



野菜作りに興味のある人を対象とした野菜作り講習会が2月16日、緑と花のセンター「さんさんの郷」で行われました。今回は、ジャガイモやホウレンソウ、キャベツなどの春野菜の作り方をテーマにした講習会に26人が参加。土づくりや種のまき方、肥料の作り方などについて指導員から説明を聞くと、参加者たちは「堆肥は入れた方がいいの」「土はどのくらいまで掘るべきですか」など積極的に質問をして、野菜作りのポイントを学んでいました。当日参加した男性の一人は「自分の野菜作りの方法が正しいのか確認するため参加しました。プロからポイントを聞くことができ大変参考になりました」と満足そうに話していました。

三好池の風を受けて

第2回三好池いいじゃんマラソン



ランニングを通じて健康増進や青少年の健全育成、自己研さんを図るとともに地域の活性化を図ろうと2月16日、三好池周回道路を舞台に第2回三好池いいじゃんマラソンが行われました。晴天に恵まれマラソン日和となった大会に、市内外のランニング愛好家377人が1周およそ4.3kmの三好池を走り抜けるハーフマラソン(21.0975km)に挑戦。当日は、冷たい風が吹き抜けましたが、参加者たちは、仲間と思いのペースで三好池を走りながら完走を目指していました。参加した女性の一人は「今日は名古屋市から参加しました。初めてのハーフマラソンで体力的にとっても不安でしたが、仲間たちのおかげで楽しく走ることができました」と完走した喜びを話していました。



地域みんなで健康に

東山ふれあい・いきいきサロン

家にいる時間が長くなりがちの高齢者に外出の機会を提供するとともに、お互いの情報交換や交流の場にしてもらおうと2月23日、東山児童館で東山ふれあい・いきいきサロンが行われました。近所の高齢者が気軽に参加できる人気の催しに、この日は38人が参加。お茶を飲みながらおしゃべりをしてお互いに交流を深めていました。後半は、南山大学落語研究会の可愛家悪技さんを招き、演目「ちりとてちん」を聞きました。可愛家さんの流暢な口調と身振り手振りで表現する世界観に参加者はすっかり引き込まれ、会場からは終始笑い声が絶えず、最後には割れんばかりの拍手が響き渡りました。



先輩へ感謝の気持ちを込めて

3年生を送る会(南中学校)

卒業を間近に控えた3年生に在校生が感謝の気持ちを伝えようと2月25日、南中学校で3年生を送る会が開かれました。この会は生徒会と2年生が中心となって企画・運営され、3年生の授業の様子など、学校生活での数々のエピソードをユーモアたっぷりにアレンジした劇が披露されました。また、劇の間には、3年間の思い出のスライドショーも上映され、懐かしい写真や後輩たちの楽しい劇に、会場は終始笑い声に包まれていました。また、在校生から3年生に感謝の気持ちを込めて、各クラスの思い出の写真を使って作ったモザイクアートと歌が送られると、3年生を代表して大橋悠真くんが後輩たちへ「このすてきな会を通して仲間や先生、親への感謝の気持ちが強くなりました。未来という真っ白なキャンバスに絵を描き、あらためて見たときに満足できるように精一杯頑張ります」と巣立ちへの新たな決意を発表しました。

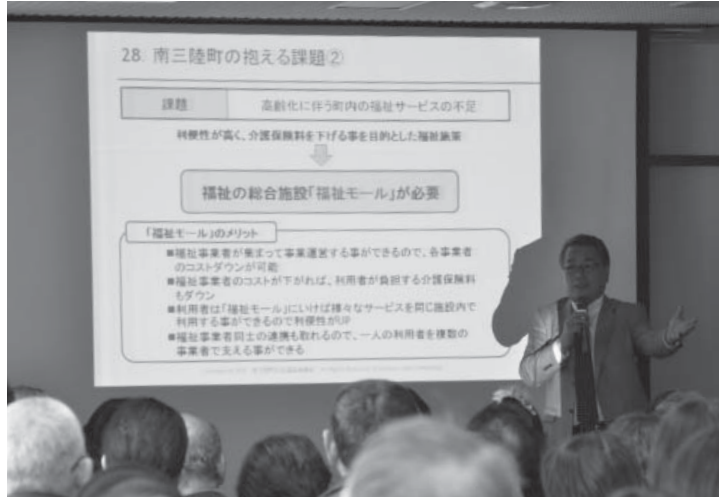




ボランティア連絡協議会特別講演会が2月15日、福祉センターで行われました。今回の目的は、東日本大震災からまもなく3年が経過する中で、その時、現地ではどのようなことが起こっていたのか、また、今後巨大地震の発生が危惧されている地域に住む私たちが今からできることは何か、講演を通して学んでもらおうというもの。当日は、宮城県の社会福祉法みなみさんりくちょう人南三陸町社会福祉協議会事務局長の猪又隆弘いのまたたかひろさんが講演。3月11日、現地ではどんなことが起こっていたのか、また現在の様子や課題、もし市内で災害が起こった場合、何を備えておくべきかなどについて話されると、参加者たちは時折メモを取りながら、真剣な表情で話に聞き入っていました。

今の私たちにできることは？

ボランティア連絡協議会特別講演会



「いざ」というときのために

応急手当普及員講習会



応急手当での知識と、普通救命講習の指導に必要な技能を身に付けてもらおうと2月20日から22日までの3日間、尾三消防本部で応急手当普及員講習会が行われました。16人が参加し、2日目の実技では小児AEDの取り扱いや異物除去の方法、止血法などについて学びました。参加者たちは、経験に基づく具体的な事例を聞くと「子どもの背中にAEDパッドを貼るときは、どのように体を持ち上げたらいいの」や「骨折の手当てをする場合、どの位置まで腕を上げればいいのか」など実際起こりそうな状況を想定し、その対処の方法について積極的に質問していました。参加した男性の一人は「仕事にもしものことがあった場合、応急手当ができるように受講することを決めました。必要な知識を得られ、また実技では職場で学んだことを復習できてとてもためになりました」と話していました。

